

公立刈田総合病院の経営状況

診療機能の維持、高度化に努めました

平成21年2月に策定した「公立刈田総合病院改革プラン」に基づき、医師増員などの経営改善計画を進め、医師数は一時、目標の29名まであと一歩の28名まで達したものの、年度末では、前年度より1名増の25名にとどまりました。これに加えて看護師の増員も進まず、厳しい体制での運営となりましたが、計画の軌道修正を図りながら、地域の基幹病院として、診療機能の維持と収入の確保、経費の節減に努めてきました。

また、2カ年にわたる病院内における情報システムの更新が完了し、MRI診断装置など診療機能の高度化を図り、患者様へ充実した医療を提供できるよう努めてきました。患者数においては、平成20年度と比較し、入院患者数は延べ6,305人の減少、外来患者数は5,790人の減少となりました。収入では、入院収益が1億3,422万3千円の減収、外来収益が4,438万9千円の減収となり、収入総額は46億5,020万7千円で、前年に比べ1億1,582万2千円の減収となりました。支出においては、費用総額が52億2,868万8千円となり、前年に比べ1億4,799万9千円の減少となりました。5億7,848万

1千円の純損失となりました。現金支出を伴わない減価償却費を除いた実質的な収支差引額は、5,828万6千円増でした。

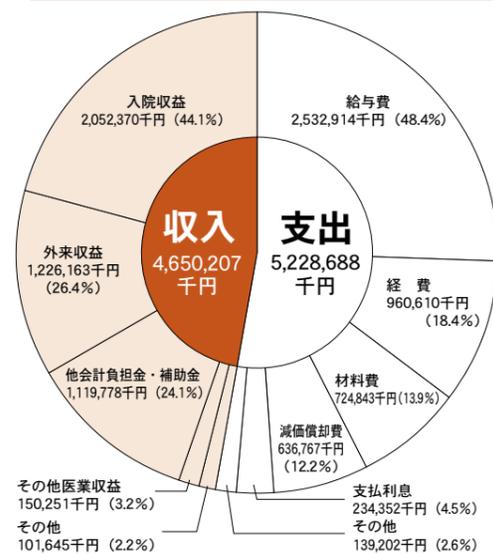
しかし、この状況は構成市町村からの臨時繰入金である運営費補助金収入5億5千万円が含まれていることによるものであり、医師不足に伴う患者数の減少により診療収入が減少し、依然厳しい経営状況が続いているというのが実情であり、医師、看護師不足という課題の解消に向け果敢に取り組み、診療体制を整えるとともに病院経営の安定化を図り、地域住民の皆様が安心して医療を受けられるような病院を今後とも目指してまいります。

(資金不足比率の公表について)

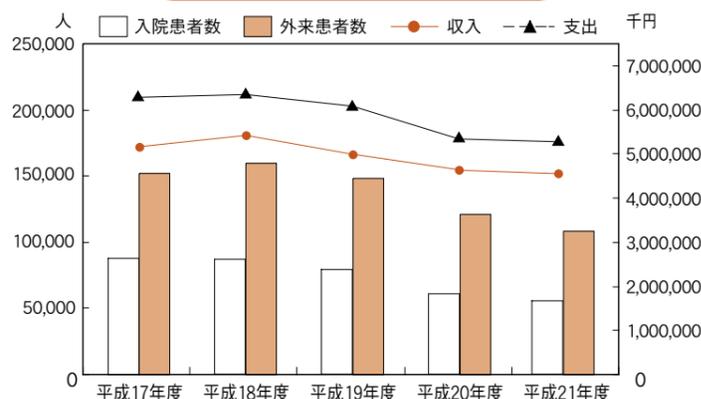
資金不足比率は、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、公営企業において公表することとされており、財政指標で、これが経営健全化基準以上となった場合には、経営健全化計画の策定などの行財政上の措置が講ぜられます。

算定基礎数値である、平成21年度の流動負債額は2億8,500万1千円、流動資産額は9億3,146万6千円で、流動資産の額が流動負債の額を上回っているため、資金不足はありませんでした。

平成21年度 収入・支出



年度別状況



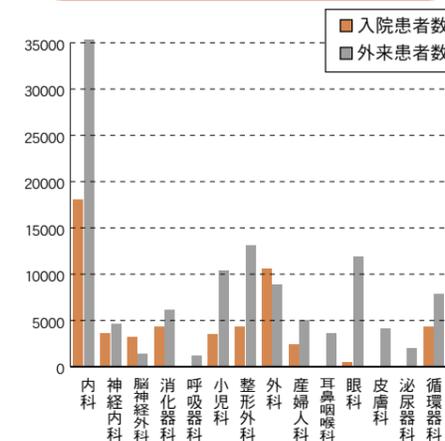
資金不足比率の公表について

特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
公立刈田総合病院事業会計	-	20.0%

※ 資金不足額がないので、「-」を記載しています。

(備考)
 ・資金不足比率 = $\frac{\text{資金の不足額}}{\text{事業の規模}}$
 ・資金不足額 = (①流動負債 + ②建設改良費等以外の経費の財源に充当するため起こした地方債の現在高 - ③流動資産) - ④解消可能資金不足額
 ※算定結果が「△」となる場合は、資金不足がないことを示します。
 ※②、④額については、当病院には該金額がありません。
 ・事業の規模 = 営業収益の額 (医療収益) - 受託工事収益の額
 ※受託工事収益の額については、当病院には該金額がありません。

平成21年度 診療科別患者数



秋の火災予防運動

火災の発生しやすい時季を迎え、11月9日から11月15日までの7日間、秋の火災予防運動が行われます。

これからは空気が乾燥し、また、暖房器具を使うことが多くなるため火災予防により一層の注意が必要になります。暖房器具の使い始めや、火を取り扱う機器等は点検してから使うようにしましょう。

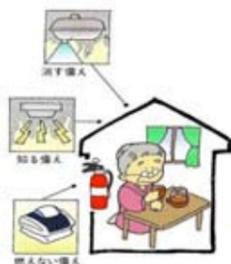
平成22年度防火標語
「消したかな あなたを守る 合言葉」

すべての住宅に火災警報器の設置が義務付けられています。住宅用火災警報器がついていたため火災の被害が少なかったという事例があります。火災の早期発見逃げ遅れの防止のため住宅用火災警報器を設置してください。

お問い合わせ
 白石消防署七ヶ宿出張所
 ☎ 37-2100

「火の用心」看板を設置

火災予防運動を推進するため、流木を使って「火の用心」の看板を作り、町内4箇所に設置しました。看板は、白石消防署七ヶ宿出張所員が休憩時間などを利用して作りました。これから火災の発生しやすい時期を迎えますので、日頃から火災予防に努めましょう。



「環境」



峠田 今野 弘章 さん



田んぼのあぜ道や牧草地を走り回ったり、友達と山に入り木に登ったり川を漕いだり... 私が子どものころはそんな中で自然に足腰が鍛えられたような気がします。現代の子どもたちは、そんな環境も乏しくなりつつあり、自然の中に飛び込んでいくことも少なくなっている気がします。

しかし、ここ七ヶ宿の環境はというと、昔と変わらない自然が残り、子どもたちの能力を高めるには最適と思っています。高校駅伝で全国入賞するような学校のコーチが、七ヶ宿を訪れ「この環境は走りこみにいいね」と太鼓判を押しています。他にも以前この町で勤務していた先生は毎年夏休みを利用してバスケットボールの合宿に来ていますし、今年初めて七ヶ宿スキー場でスキーのオフトレッキングセミナーも行われました。この七ヶ宿にある「宝」を生かさないのはもったいないありません。この自然を生かし、今話題のトレイルランニングやクロスカントリーコース、またはちよつとした宿泊施設があれば、さらに各方面のスポーツ選手が来町するきっかけになり町も賑わうのではないのでしょうか。

七ヶ宿の自然を大切に守りながら、子どもたちに夢を与えていけたらと感じています。次回、ご自宅がお隣の奈良一志さんにリレーされます。